

令和 3 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000120		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム山田		
所在地	〒028-1321 岩手県下閉伊郡山田町山田19-51-1		
自己評価作成日	令和4年1月 日	評価結果市町村受理日	令和4年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた当ホームで利用者の皆様は毎日穏やかに生活されております。現在は新型コロナウイルス禍にて外出等制限されておりますが、暖かい日にはホームの軒先に出て日光浴をしたり天気の良い日にはドライブに出かけたりしています。食事に関しては季節の旬の食材を出来る限り使用し食事により季節を感じて頂けるよう努めております。週に1~2回手作りのおやつを提供したり、誕生会やその他行事には手作りのケーキを提供させていただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は山田町の中心部から少し離れた山間部の集落の中に立地し、里山の自然環境に恵まれた環境にある。コロナ禍のために外出機会が減少し、地域との交流機会も大きく制限せざるを得ない状況が続いているが、長い歴史のある地域にあって、利用者と地域住民との挨拶などの「ふれあい」は定着している。事業所は2階建てであるため、火災時の避難には課題があることを、管理者と職員は良く理解しており、避難訓練を重ねるとともに近隣住民から協力者を確保する等の努力を重ねている。また、利用者が喜ぶ食事の提供にも注力しており、希望に沿って季節や行事に合わせた手作りおやつやケーキを提供して、利用者を楽しませている。開設から9年目となり、地域にとっても存在感あるホームとなっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年3月22日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務室、ホールの3か所に理念を掲示している。職員会議時に理念の内容を確認、復唱している。	開設から9年目の事業所であるが、理念は当初からのものを継承しており、事務室や玄関、ホール内に掲示して浸透を図っている。また、2か月に1回の職員会議において、管理者から理念について話して理解の促進を進めている。	開設10年を一つの区切りと捉えて、職員全員が参加して理念の見直し作業を行う時期と考えられる。皆で作り上げる過程を大切にしたい取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で面会や来客の訪問、地域活動への参加を控えさせていただいておりますが、道路を地域の方が通りかかった時はあいさつしたり手を振り合う関係が保たれている。	地域に住む職員を通じ地域の行事等の情報を得ている。地域の神社の祭りはコロナ禍のため未開催となり、集会場での交流も出来ていない。通りに面しているためホールの窓から地域の方と手を振って挨拶したり、地域での“なもみ”行事への寄付等は続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス禍で地域の方々の理解や支援は思うように進んでいないのが現状であるが、地域に新しい施設が出来るのでお今後は互い協力し地域貢献していきたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響で昨年1月の開催を最後に開催を見送らせて頂いておりますが、運営推進会議の資料は2か月に1度作成し、運営推進委員の方々に送付させて頂き確認していただいております。	コロナ禍のため、参集しての会議は昨年1月以降開催できていないが、現状報告や行事報告等の資料は各委員に送付している。意見等をお願いしているが、これまで寄せられてはいない。委員は町社協会長、町食改委員会長、民生委員、地区長などであり、バランス良い構成となっている。	資料を送付する際は、項目毎に意見や質問を記載する書式とするなどの工夫をすることにより、有意義な書面開催となるような改善を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括ケア会議や町主催の研修会等に参加させて頂き情報交換している。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加しており、現状資料を送付しているほか、町主催の包括ケア会議にも参加している。支援センターからは理美容師の紹介などの支援も得ている。町の長寿社会課とも介護情報の提供等で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3月、6月、9月、12月に身体拘束廃止検討委員会を開催している。運営推進会議の資料にも身体拘束廃止検討委員会の研修内容等を推進委員の皆さんにもご確認いただいております。防犯上の理由から19:00~5:30の間は玄関の施錠を行っているが、日中は行っていない。	身体拘束廃止検討委員会は3か月毎に開催しており、その内容は運営推進会議の資料としても情報提供している。転倒防止のための人感センサーは3人に使用しており、家族からの了解を得ている。2階からの階段は急で危険のため、上部に仕切りしており、通常はエレベーターを使用している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職場内研修において高齢者虐待についての研修を行い、虐待の内容を理解し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は自立支援制度を利用されている利用者様はいらっしゃいませんが、知見のある方から成年後見制度の内容について教えて頂いたり、パンフレットを頂き今後利用される場合に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所される前に契約書、重要事項説明書、運営規程の内容について口頭で説明し理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が他の方々に聞かれたくない話がある場合には居室にて個別に対応し、自分の思い等話して下さる場合があります。時には家族には話さないで欲しいという場合もあり、本人の意思を尊重し対応しています。	利用者から個別に話したいような場合には、各居室にて話を伺うようにしている。実家の土地の心配事等が良く話に出る。家族には、年に4回ほど広報を作成して送付し好評を得ている。預かり金が不足する場合等に来所してもらい、要望も伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時、管理者から伺いを立てて提案や意見を頂いている。	職員からは職員会議のほか、毎日の申送りの際にもよく意見等が出されている。各利用者のケアの内容や台所用品、洗濯機などの備品修理についてなどの意見が多く、その都度対応している。職員との個別面談は、必要に応じ管理者が声掛けして実施する場合がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は各々の目標を持ち、達成できるよう心がけている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状外部の研修への参加は思うようにできていないが、資格の取得へのアドバイス等行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス禍となってからは参加していないが、町内の新設のグループホームの運営推進委員として交流を持っている。コロナウイルス収束後は相手の管理者様にも当ホームの運営推進委員をしていただく予定となっております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安な気持ちを受け止め、良好な関係作りに努めている。また、利用者様の不安な気持ちを察した場合には職員間で情報共有し心に寄り添うケアを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを理解し、家族の立場になって希望、要望等伺い、話しやすい環境づくりをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族から若い頃や入所される前の情報を伺い、ご本人やご家族の望まれるケアの参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の下準備や軽作業等利用者様と同じテーブルで行ったり、昼食を利用者様と同じテーブルで摂取し同じ目線での生活空間をセッティングできるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人をリフレッシュさせる目的でお盆や年末年始、連休等にご自宅に外泊に連れていかれるご家族もおられる。		

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はなかなか思うように外出できない状況ですが、遠方の弟さんに写真付きの手紙を送ったり、または返信が来たりする場合もある。手紙が届き電話で「嬉しかったです」と返事を頂いたこともあります。	コロナ禍のために家族や友人等との面会ができない、外出ができない状態が続いているが、遠方に住む義弟から近況の問合せがあり、その返事に本人の手紙と写真を返信して喜ばれたこともある。また、孫からのXmasプレゼントや年賀状の交流なども行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や介護度等を考慮し、お互いが快適に楽しく暮らしていけるよう支援している。ホール内の座席や食席もトラブルがあれば変更したり、テーブルの高さが合わなければ場所交換したりと柔軟に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院先の病院に面会に訪れたり、ご家族様にその後の様子を伺ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の行動や言動、表情等に留意し把握した情報を職員間で共有し、本人の望む事、やりたい事を見つけて支援している。	大半の利用者が、その思いや意向を話すことができており、暑いや寒いなどの一言を聞き洩らさずに対応している。望むこととして、外出や買い物希望が多く、コロナ禍にあっても、できる範囲での外出や職員の買物代行で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの証言や聞き取り等にて生活歴の把握に努めている。本人の話す過去の事に耳を傾けなるべくその状況を実現できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個別に日課において出来る事と出来ない事を見極め、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度利用者様個別のカンファレンスを実施し職員間で情報共有している。また、カンファレンスの機会を問わず状態に変化がある場合には随時話し合いを持つようになっている。区分変更があった場合も本人の状態を見極め適切な介護計画を作成している。	ケアプランの項目毎に、毎日担当職員がチェック表に記録し、それを基にケアマネージャーが中心となって3か月に1回の個別カンファレンスを開催して見直しを行っている。また、状態に変化がある場合には、その都度見直し作業を行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の観察記録、連絡ノート、日誌などでスタッフ間で情報共有している。申し送り時には体調の変化や周辺行動などの情報を伝え、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じてその都度話し合い柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスのため思うように交流する事が難しい状態ではあるが、包括支援センターから情報を頂き新しい理容店に定期的に来ていただき散髪していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じた診療科の受診、体調変化した際には家族に状況を伝え、家族本人の望まれる病院を受診できる体制を取っている。また、症状に対し適切な専門医のアドバイスをする場合もある。	かかりつけ医は入居前からの継続診療が多く、宮古市内の精神科病院や、山田町内のクリニックが主となっている。通院は職員が主に対応しているが、コロナ禍のために職員だけで薬をもらう場合も多くなっている。町内では訪問診療の体制が無いため不便を感じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回社内に配属されている看護師が来訪している。体調や状態悪化した場合は24時間体制で連絡を取れる体制を整え、適切なアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には医師による家族への説明に立ち会っている。看護師にもホームでの様子など情報提供し、本人が安心して入院生活を送れるようにしている。退院時には病院からのサマリーにて情報を頂き、医師からは退院後再度体調不良になった場合のアドバイスを受け対応している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	町内に訪問診療を行っている病院がないため、現状でホームでの看取りは難しい状況である。入所時に看取りは難しい現状を家族に伝え、理解を得ている。また、緊急時の対応の仕方も家族に伝えている。	町内には看取り対応の協力医がないために、現状では重度化後の看取り対応ができないことを、本人や家族に説明し理解を得ている。重度化した場合には、入院となり、その後に療養型病院に転院となるケースが多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内での研修にて緊急時の対応のスキルアップを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。水害時はホームの2階を避難場所としており、高齢者等避難準備情報発令時には対応している。地域に新規で開設される施設と緊急時における連携協定を結び、協力体制を築いている。	2階建ての建物であり浸水時には2階への避難とすることで町からは了解を得ている。避難訓練は火災想定で年に2回行っている。今年の2月には、すぐ近隣の住家火災があり、規制のために応援職員が事業所に近づけない事があり課題としている。このため、近隣住民に応援を依頼したところである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に利用者様に対し尊敬の念を抱き、優しく接するよう心掛けている。入浴や排泄時異性による対応に抵抗がある方のケアにも本人の意思を尊重し柔軟に対応している。	常に利用者の尊厳に配慮した対応を心掛けており、自ずと暖かい声掛けとなっている。方言で話す利用者には方言で話すものの、見下すような話し方とならないよう配慮している。プライバシー保護のため、自力で更衣可能な場合には、職員は外で待機するなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の表す希望や要望に可能な限り対応している。利用者様の持つ思いなどなるべく希望に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新型コロナウイルスのため外出の要望に沿うことは思うようにできていませんが、起床、昼寝、就寝時間や入浴、外泊の意向など利用者様自身のペースを尊重し、なるべく希望に沿う支援をしている。		

令和 3 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出掛けて買い物する事が難しい現状であるが、起床時に本人様に着たい服を選んでいただいたり入浴時好みの着替えを選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や下膳、食後のテーブル拭き等職員と一緒にいってお膳の配色や盛り付けにも配慮している。昨年より利用者様の誕生日には今までは出来上がったものを提供していたが、手作りのケーキを提供している。	朝食と夕食は冷凍食品の利用だが、昼食は職員が手作りしており、利用者の希望を取り入れて提供している。利用者は皮むきや面取り、配下膳などを手伝っている。また、おやつ作りにも注力しており、週に2、3回は楽しんでいる。職員の提案で、誕生日のケーキは手作りして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日当たりの食事摂取量、水分補給量を記録し栄養状態を把握している。受診時に血液検査の結果不足している栄養素があれば努めて摂取していただくようにしている。必要な方には食形態の変更も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、食後に声掛け見守り又は介助にて義歯洗浄、口腔ケアを行っている。夕食後には義歯の消毒も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、日々の回数を把握している。排泄から気が逸れている利用者様は声掛け誘導し対応している。	日中はリハビリパンツとパットを使用しているが、トイレで排泄可能な方が大半である。排泄チェック表に記録して間隔が長い方にはさりげなく小声で声掛けして排泄を促している。本人の安心感のために、昼夜のポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日昼食時にヨーグルトを摂取していただいている。食事に野菜を多く取り入れ、バランスの良い食事に取り組んでいる。便秘が続いている利用者様にはあらかじめ処方されている下剤を調整しコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に最低2回は入浴対応している。湯花を使用し快適に入浴していただくよう工夫している。時季には菖蒲湯、ゆず湯も提供している。声掛けし気が進まない場合は日時変更するなど柔軟に対応している。	週に2回の入浴を基本としているが、希望があればその都度対応している。職員は主に背中や洗髪の介助としており、その他は利用者で洗う方が多い。職員との会話を楽しみながら時間を過ごしており、季節を感じる菖蒲湯なども楽しんでいる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は本人のタイミングで行っている。時間が分からない利用者様には声をかけて促す場合もある。昼寝に関しても自身のタイミングでマイペースに過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、用法、用量、副作用など個別にファイルに綴り、いつでも確認できるようにしている。誤薬防止の為服薬時は薬袋に記載の朝、昼、夕と利用者様の名前を声を出して確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業のお願いの声掛け、終了後の感謝の声掛けをし、声の掛け方により達成感や喜びを感じられるよう配慮している。正月には飲酒を希望された利用者様もあり、対応させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響にて思うように外出できていない状況が続いていますが、お正月には近所の神社に参詣に出かけている。暖かい日にはホームの外に出て日光浴を楽しんでいる。	コロナ禍の影響を受けて、全員での外出機会はなくなっているが、利用者の希望もあるため、週に1回程度の食材を受け取る機会等に、利用者も車に同乗するなどしている。また、町内のお花見や紅葉見物などで、少人数のドライブを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では利用者様本人がお金を所持する事は不可であるが、入所時にご家族様にその旨をお伝えし、預り金という形で職員が管理している。利用者様からおやつや日用品の購入希望があれば預り金から購入する体制を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時にいつでも電話をかけて頂ける体制を整えている。ご家族から電話がかかってきた場合も同様に取り次いでいる。手紙のやり取りも希望時には対応させて頂いている。		

令和 3 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにてほとんどの利用者様は日中過ごされているが、寒い等の要望があればエアコンにて温度調整を行っている。テレビやラジカセの音量も適量に調整し、日差しがまぶしい場合はブラインドで日光の調整をしている。夜間は各居室に個別に設置してあるエアコンで温度の調整している。冬季間は加湿器にて湿度の調整をしている。	ホールには大きなガラス戸があり、暖かな日差しが入る。中心には食卓が2列配置され、日中はほとんどの利用者がホールで過ごしている。壁には季節を感じさせる桜の飾り付けや行事の写真などが掲示され、外出機会が少なくなっている利用者を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に座席は決まっているが、利用者から要望あった場合や利用者間でトラブル等あった場合は変更を検討し対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には視認性の良い表札を貼って自身の部屋だと認識できるようにしている。居室内にはなじみの方の写真を飾ったり自ら希望された新聞の切り抜きを貼り眺めている方もおられる。全室にエアコン設置してあり温度管理している。	多くの居室は2階にあり、1階への移動は、急な階段を避けてエレベーターを使用している。居室にはエアコンとベッド、チェスト、クローゼットが備付けられ、利用者は衣装ケースや家族写真等を持ち込んで、お気に入りの写真記事等を貼り付けて、心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に誘導札を付け目視により場所を認識できるようにしている。		